

概要

XJAnalyser は、JTAGチェーンを、視覚的に解析・デバッグできるツールです。3ステップの設定で、即座にJTAGチェーンの確認ができて、JTAGデバイスの各信号線をリアルタイムに表示します。

また、複数の信号線をバスとしてコントロールすることや、オープン・ショート解析の為に信号のH/Lを簡単に切替え操作することができます。更に、基板上のJTAGデバイスへのプログラミングもサポートしています (STAPL/JAM、SVF 形式など)

主な効果

- 開発効率の向上—信号に値を設定し、確認することでBGA搭載基板であっても即座にデバッグができる
- 試作品から製品化までの時間を短縮し、タイムtoマーケットが向上
- デバイスごとのプログラミングツールは不要になり、コストを削減できる

グラフィカルに回路をデバッグ

オシロスコープで基板を解析する場合、ある信号線をH/Lにトグルさせながら、その信号を別のポイントで確認することでしょう。この場合、プローブを他のピンに少しずつしただけで、たちまち信号解析は中断されてしまいます。

XJAnalyser なら、デバイス上のどの信号線がトグルされているかを、容易に確認できます。デバイスごとに数千もの信号線があっても、ボタンを押して値を変化させながら、信号線を監視することができます。

信号数が多い場合は、JTAGチェーンの特定箇所のみを見ることもできます。XJAnalyser で、興味ある箇所のみズームインすることや、複数ウィンドウを用いて様々な箇所を同時に追いかけることもできます。

柔軟な操作性

JTAGデバイスの操作は、思いのままです。XJAnalyser では、グラフィカル表示、ピンリスト、ピンウォッチウィンドウ、の3つのGUIから信号線を操作することができます。ピンウォッチウィンドウでは、複数の信号線をバスに設定し、バス単位での操作も可能になります。

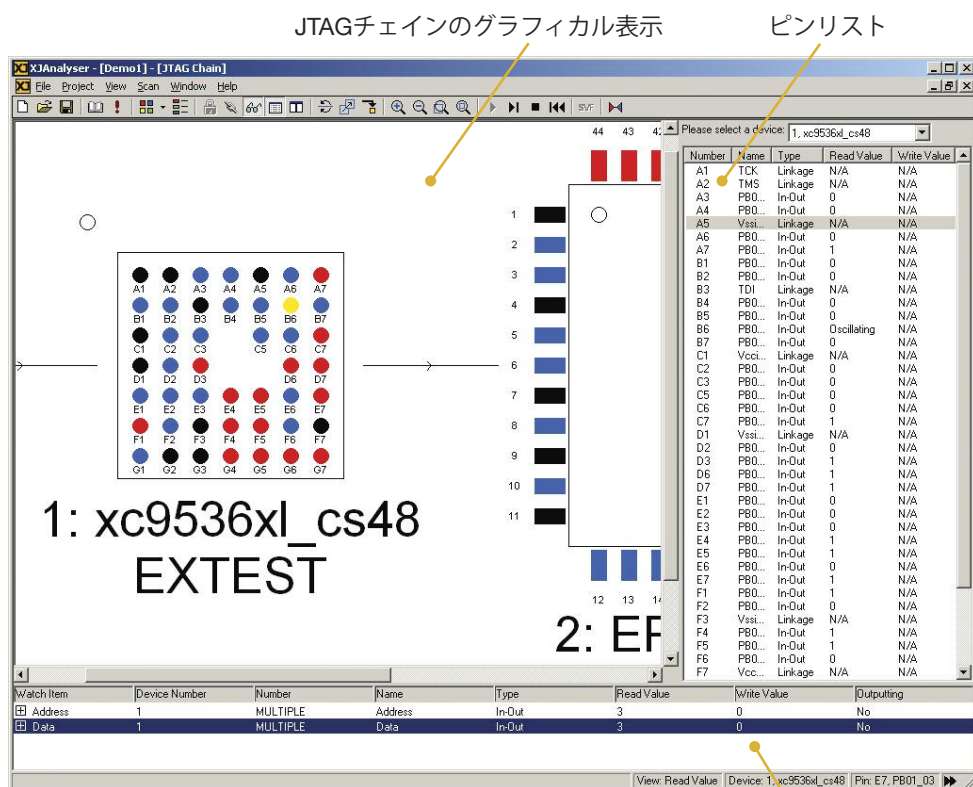
JTAGチェーンに対するデバッグ、解析作業

直感的なグラフィカルユーザインターフェイスを用いて、即座に (プログラミングやブートコードなど一切必要なく)、JTAGチェーンのデバッグを開始することができます。

グラフィカルに、全I/Oピンの状態をリアルタイムに監視し、H、L、あるいはトグル操作をすることができます。

複数の信号線をバスに設定し (例えばデータやアドレスバスとして)、使い勝手の良い単位 (Hex、バイナリ、デシマル) で、値を設定することができます。

基板に対するダメージを回避—
XJAnalyser は、ある信号をドライブして信号衝突 (コンフリクト) が発生する場合、警告を発生します。



ウォッチウィンドウ

3ステップ設定

XJAnalyser の設定は、ウィザードを用いて、シンプルかつ迅速に行えるので、基板のテスト、デバッグを即座に開始することができます。必要なのは、JTAG コネクタの信号配置を確認し、適切なBSDLファイルを準備するのみです。

BSDLが無くても、他のデバイスで動作させることもできるでしょう。

CPLDへのプログラミング

XJAnalyserでは、CPLDやFPGAへのプログラミングをサポートしています (STAPL/JAM、SVF形式)。例えば複数のJTAGデバイスが存在していても、特定デバイスごとのプログラミングが可能です。

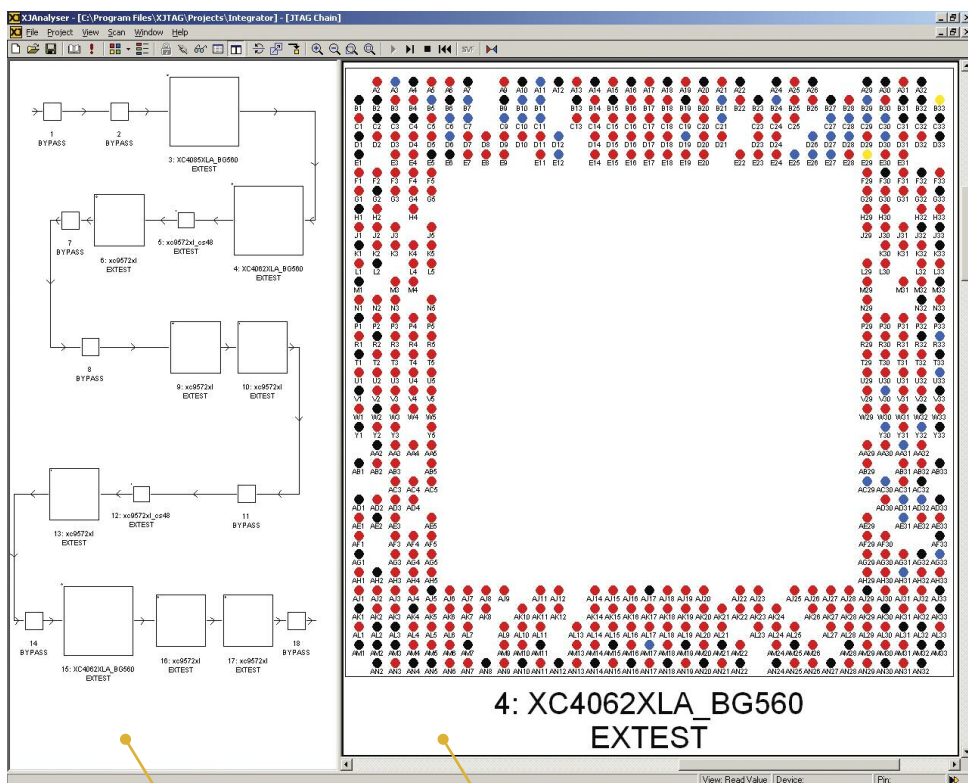
機能

- プラグ&プレイ
- BGA、ファインピッチデバイスのテストが可能
- BSDLファイルのみで使用できる
- 信号線进行操作、H、L、トグル
- ショート、オープン、その他状態を監視
- デバイスピン、バス単位で簡単に操作できる
- ズーム表示、表示分割で信号線を明確に解析
- 変化する信号線を容易に確認
- SVF、STAPL形式のプログラミング
- リアルタイムにデバッグ

XJTAG gives you more...

XJAnalyser には上記全ての機能に加えて、以下のものが提供されます。

- XJLink — USB2.0対応JTAGアダプタ (ホストPCとターゲットの接続)
- フローティングライセンスキー XJLink 内に有るため、複数のPCにソフトウェアはインストールできる
- デモターゲットHW (トレーニング、動作確認用)
- 完全な和文導入資料



ズームアウト表示

ズームイン表示

顧客の声

Jonathan Healy
Design Engineer
TTPCom

“XJTAGは、我々の期待を大きく上回りました。比類なきスピード、正確さ、使い勝手の良さ。これにより、携帯電話のリファレンスボード（製品化の短縮を求められる携帯電話業界では欠かせない）の開発期間を数日、あるいは1週間程度早めることができました。

複雑な開発基板の動作を迅速に確認し、設計どおりであることの検証をすることは、これら基板が広範に渡って用いられ、莫大な予算が投じられることから、とても重要となっています。”

Authorised distributor:

 **FUJI SETSUBI**

富士設備工業株式会社 電子機器事業部
〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町1928-1
Tel: 072-252-2128 www.fuji-setsu.co.jp